

## 7/21 駅に集まる夏まつり 第7回南阿蘇白川水源駅祭



打ち上げ花火を眺める来場者

南阿蘇鉄道 南阿蘇白川水源駅の駅前広場で、地元で組織される「白川活性実行委員会」主催の「第7回白川水源駅祭」が開催されました。

くまモンの登場やヤマメのつかみどり、大抽選会など毎年恒例のイベントに加え、今年初開催の相撲大会では、子どもから大人までたくさんの参加があり大盛り上がりでした。

夜には花火大会も行われ、駅舎の向こうに打ちあがる鮮やかな花火を見上げる人々で最後まで賑わっていました。

## 7/20 きれいな水で育つ復興への取り組み 「スイゼンジノリ」試験養殖開始



温度や水の状態管理のため、「3日に1回程度見に来ています」と福崎教授(右)

村と東海大学九州キャンパスで組織する総合交流協議会事業の一環として、今年4月から黒川・中松地区でスイゼンジノリの試験養殖が始まっています。

スイゼンジノリは日本固有の淡水性ラン藻で、きれいな水でしか育たない非常にデリケートなもの。化粧品や食材の原料としても知られています。

この取り組みは、スイゼンジノリ研究に38年間取り組んでいる梶田聖孝東海大学名誉教授や東海大学九州キャンパスの福崎稔教授、岩代一宏さん(中松一)らで進められ、黒川地区の試験場では3カ月で5倍の量に増えたそうです。将来は村内の湧水地区住民に養殖のノウハウを伝えてもらい、商品化による地域活性化につながることを期待されています。

## 7/29、8/5、13、19 楽しく学ぶ水辺の安全 みなみあそB&G水辺の体験教室



カヌーの操船方法を学ぶ参加小学生たち

白水B&G海洋センタープールで、「水辺の体験教室」が行われました。申込みをした村内小学3年生～6年生35人が3日間の実施日に分かれて参加しました。

参加した小学生たちは、ライフジャケットの浮遊体験、ペットボトルを使った救命・救助方法などを学んだほか、SUP(スタンドアップパドルボード)やカヌーの体験を通して、水辺で楽しく安全に活動するために重要な「セルフレスキュー(自分の身は自分で守る)」の意識を高める学習に真剣に取り組みました。

## 7/24~26 海っ子山っ子交流キャンプ 新上五島町・南阿蘇村子ども会合同育成キャンプ



たくさんの体験を通して交流を深めた3日間

村と姉妹提携をしている長崎県新上五島町と村子ども会の合同キャンプが3日間の日程で行われ、新上五島町からは21人の小中学生、村からは13人の小学生が参加しました。

この取り組みでは実施年で交互にお互いの町村を訪問しており、15回目を迎えた今年は新上五島町の参加者が村に訪れました。

両町村の子どもたちは1日目の夕食のカレーを協力して作ったり、2日目にはハイキングや白水B&Gプールで遊んだり、さまざまな団体行動・自然活動を通して交流を深めていました。

### 8/1 村内外からたくさんの来場者 あそ望の郷くぎの夏まつり



会場に手を振る浴衣コンテストの参加者

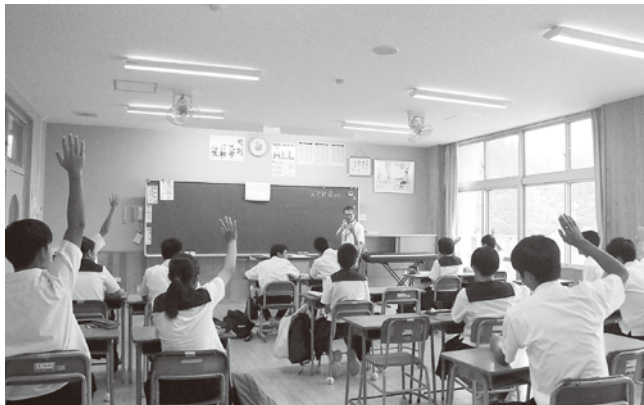
「あそ望の郷くぎの夏まつり」が、道の駅あそ望の郷くぎの駐車場で開催されました。

ステージイベントでは、太鼓の演奏や猿まわし、歌謡ショーやバルーンアートなどの催しが行われ、ステージ前のベンチは村内外から訪れた大勢の来場者で埋まりました。

毎年恒例の「浴衣コンテスト」ではお気に入りの浴衣に身を包んだ参加者たちが登場し、それぞれの素敵な姿に審査員の皆さんは悩みながら採点。3位までの入賞者にはあか牛などの景品が贈られました。

大抽選会や花火大会もあり、会場は最後まで賑わっていました。

### 8/1 受験生の学習支援 南阿蘇村放課後英数教室



第1回目の教室は数学の指導が行われました

今年度1回目の「南阿蘇村放課後英数教室」が南阿蘇中学校で行われました。この教室は昨年度に続いて2年目の実施。熊本地震以降、公共交通機関の関係で塾に通えない、勉強したくてもできない環境を解消するため、高校受験に向け学習機会を増やすことを目的として教育委員会が主催しています。

対象は南阿蘇中学校3年生で、元学校教員や塾講師などが英語と数学の2教科を指導。受講者は8月から翌年2月まで週4日間、学校の空き教室で学びます。

### 8/10 夏に地域の思い出を 下田夏祭り



順番に挑戦したスイカ割り

「下田夏祭り」(下田区夏祭り実行委員会主催)が開催され、地域住民やお盆で帰省中の人などが訪れました。

この夏祭りは子どもたちに地域での楽しい思い出を作る機会を設けたいという思いから、地元消防団が組織する同実行委員会が毎年準備しているもの。

当日は子どもから大人まで多くの人が集まり、参加者はスイカ割り、ヤマメのつかみ取りなどの催しや屋台の食べ物を楽しんだほか、住民から集めた地域の昔の写真掲示を眺めながら地域の昔話に花を咲かせていました。

### 8/8 熊本地震の教訓を伝える新たな試み すがの里が視察向け復興弁当の試食会を開催



試食会の様子(上)と復興弁当(右)

東海大学生への弁当提供で活動中の「すがの里」が新たな取組みを開始します。

新たな復興弁当の試食会は、報道関係者や県・村の関係者18人を対象に行われ、あか牛ステーキや地元の野菜を盛り込んだメニューに、参加者は舌鼓を打ちました。今後は、参加者のアンケート結果を基に復興弁当を完成させ、視察団体に提供するとともに自らの被災体験談を聴いてもらう取組みを始めます。すがの里会長の渡邊ヒロ子さんは「復興弁当の提供をとおして、熊本地震の体験(命の大切さ)を村内外に伝えたい」と思いを語られました。